

山口情報芸術センター [YCAM]: パフォーマンス公演

## 山下残「庭みたいなもの」

振付/演出: 山下残 舞台美術: カミイケタクヤ

2012年1月28日(土) 19:00開演・29日(日) 14:00開演(各回30分前開場)

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA ※各回終演後にイベントを開催

## YCAM共同プロデュースによるパフォーマンス公演開催。

## 独特の方法論と実験的な創作がもたらす、「身体と言葉」の新たな出会い

山口情報芸術センター [YCAM] では、「身体と言葉」に着目した独自の的方法論による作品を発表し続ける振付家、山下残<sup>やました ざん</sup>による最新作「庭みたいなもの」を上演いたします。

本作は、優れたアーティストによる作品創作と、パフォーミングアーツの実験的な作品を観賞する機会を提供しようと、国内の2つの劇場とYCAMが連携し、共同プロデュースをすることによって実現した意欲作です。美術家カミイケタクヤによる壮大な舞台美術とともに、パフォーマーと様々なモノが、次々と登場する本作には、コミュニケーションにおける言葉と身体の衝動がユーモラスに描き出されます。本公演に関連し、YCAMでは、山下残の創作の的方法論からヒントを得たオリジナルワークショップも開催。パフォーミングアーツにおける言葉の存在や、コミュニケーションの観察に迫る、山下残による〈ダンス〉の魅力をも、この機会にお楽しみください。

**チケット情報** ※チケット発売: 11月12日(土)

料金: [全席自由]

前売 一般2,500円/any 会員・特別割引2,000円/25歳以下1,800円

当日 3,000円 ※当日は各種割引対象外

ぜひこの機会に、取材や記事掲載ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター[YCAM] 広報担当: 廣田

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 e-mail: information@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市巾着町7-7 <http://www.ycam.jp/>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



山下残「庭みたいなもの」(2011、AI・HALL) photo: 阿部綾子

### ■ 関連イベント

#### YCAMオリジナルワークショップ「コトバ身体」

1月21日(土)・22日(日) 13:00-17:00 [2日間通し]

講師: 山下残、YCAM教育普及スタッフ ※要申込

対象: 高校生以上〜一般(経験不問) 参加料: 1,500円

申込受付期間: 11月14日(月) - 2012年1月8日(日) 必着

### ■ 終演後イベント (各回で開催内容が異なります)

#### 1月28日(土) ポストトーク

出演: 山下残 ※ほかゲストあり

#### 1月29日(日) アフターアワーカフェ

出演: 山下残、出演者ほか

作品についての感想を交換したり、作品鑑賞のポイントを深めるスペース「アフターアワーカフェ」を開設。振付家や、出演者、スタッフとの交流も楽しむことができます。

## 気鋭の振付家、山下残による〈ダンス〉の冒険

"からだ"と"ことば"の間にある、ユーモラスなコミュニケーション。

山下残は、2002年以降、独自の構造と方法論をもったダンス作品を発表し続け、近年は、アジアを中心に海外でも注目を集めています。「身体から発信すること」「究極的には、人間の自由を求める行為」として〈ダンス〉を定義する山下は、観客に本を配布してページをめくりながら舞台を観る「そこに書いてある」(2002)、ダンサーの動きを言葉にするMCが登場する「透明人間」(2003)など、身体を言葉で記述したり、身体と言葉の間へと想像力を導く作品で評価を得ています。さらに、太田省吾、松本雄吉といった日本を代表する演出家の作品に出演するなど、俳優としても個性を発揮しています。

本作「庭みたいなもの」では、美術家のカミイケタクヤとのコラボレーションや、国内各地を移動しながらの創作活動、山口情報芸術センター [YCAM]、AI・HALL (伊丹)、STスポット (横浜) の共同プロデュースにより、山下の創作における原点といえる「身体と言葉」の更なる探求を見ることができます。そこには、自らの想像を他者に伝えようとする身体と言葉の衝動、他者と交感するユーモラスなコミュニケーションを発見することができます。〈言葉〉の存在に〈ダンス〉からインスピレーションを与え、コミュニケーションの観察という行為に〈ダンス〉を拡張する本作は、振付の方法論をも試行する野心的な試みといえます。

### 作家プロフィール

山下残 | Zan Yamashita

振付家/演出家

1970年生まれ。1990年代より振付家・演出家として実験的で野心的な舞台作品の発表を続ける。2002年には、来場者に100ページの本を配り、観客がページをめくりながら本と舞台を交互に見る「そこに書いてある」を発表。2004年には、スクリーンに映写される呼吸の記号と俳句のテキストを身体とあわせて見る「せきをしてもひとり」で、京都芸術センター舞台芸術賞受賞。このほか、ダンサーの動きを言葉にして声にする「透明人間」(2003)、揺れる舞台装置の上で踊る「船乗りたち」(2005)、動物が演劇をしているようにも見えるダンス作品「動物の演劇」(2007)、観客席の頭上に水面の映像が映るモニター15台を吊り下げた「大洪水」(2010)を発表。俳優としても活躍し、太田省吾演出作品「きこえる、あなた？」(2005)や、松本雄吉演出作品「イキシマ」(2010)に出演。2008年には、「そこに書いてある」をリメイクし、「It is written there」をクンステンフェスティバルデザール(ベルギー)にて発表。翌年にはイスタンブール国際コンテンポラリーダンス・パフォーマンスフェスティバル(トルコ)にて公演。このほか、2009年には「せきをしてもひとり」を、エスプラネードシアタースタジオ(シンガポール)にて発表するなど、海外での公演も多数。

<http://www.zanyamashita.com/>



山下残「せきをしてもひとり」(2004)



山下残と美術家、カミイケタクヤとのコラボレーション公演  
写真提供：高松市美術館(2010)



photo: Baryan

## 山下残「庭みたいなもの」

コミュニケーションから排される、意味や文脈。

パフォーマーたちの間を行き交う「発信」と「受信」。そこから見える風景とは一。

本作では、パフォーマーと、様々なモノが、たくさんの組み合わせで次々と登場します。モノに対峙したときの発見や想像力を、相手に伝達しようとするパフォーマー。そのやり取りからは、言葉の意味や文脈が次第に抜け落ちていき、コミュニケーションの骨格のみが露呈していきます。

モノを媒介に送受信される電波のようなやり取りと、伝えることへの衝動を〈ダンス〉と捉える本作は、振付の方法論を確立させる過程、そこから導かれるパフォーマーのやり取りを舞台上に開示する実験的な作品といえるでしょう。舞台上で次々と展開するパフォーマー同士のやり取りを前に、観客は、言葉と身体がもつ発信・受信への衝動と、そのおもしろさ、コミュニケーションを成立させるために人と人との間に生まれる不思議な感覚を発見していきます。



山下残「庭みたいなもの」(2011、AI・HALL) photo: 阿部綾子

### ■ 無数の日用品と漂流物からなる舞台美術

本作の特徴のひとつである美術家、カミイケタクヤによる舞台美術。舞台から客席までを囲む壮大な構造は、カミイケが高松にて自ら建て、生活した小屋を、空間ごと劇場に移すというコンセプトのもとに製作されます。また、作品に登場する様々なモノは、カミイケが小屋の生活において収集した大量の漂流物や小道具です。記憶や時間の経過を感じさせるモノたちは、パフォーマーのやり取りのなかで想像力を与えられ、言葉と身体によって新たに描写されていきます。

### ■ 発信・受信の組み合わせ、そのすべてを俯瞰した創作

振付家の方法論を確立させる過程を開示し、「人とモノ」のシンプルな組み合わせで、コミュニケーションの構造に迫る本作。その創作段階では、YCAM InterLabが参加し、パフォーマーとモノの組み合わせにあるパターンを、コンピュータプログラムによって解析しました。人間の想像を超える何千ものすべてのパターンを、演算によって明らかにする創作方法は、振付家に、作品の可能性を俯瞰する視点をもたらします。それを元に、各パターンの接続方法から物語性やメロディを可能な限り排すことで、ノイズの集積のように折り重なった全体像が、観客の観察にゆだねられるのです。

#### 「庭みたいなもの」舞台美術

#### カミイケタクヤ | Takuya Kamiike

美術家

舞台大道具(舞台美術)を職として、その舞台製作技術に独自の技術と感性を加え、年月を重ねた味や風格を持つものや、自然が最も美しいとして、人を揺さぶれる作品を作ることを試みている。空間作品と空間を構成する個々のものとしての平面と立体を製作。2010年、高松市美術館「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.01」出展。現在、香川県在住。

<http://kamiike.jugem.jp/>

## 山下残の創作にある、方法論を体験するワークショップを開催。

### 関連イベント

#### ■ YCAMオリジナルワークショップ「コトバ身体」

2012年1月21日(土)・22日(日) 13:00-17:00 [2日間通し]

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

講師：山下残、YCAM 教育普及スタッフ ※要申込

対象：高校生以上～一般(経験不問) 定員：20名

参加料：1,500円

独自のエクササイズと考察によって、普段は意識しない「身体と言葉」の関係性について発見するワークショップ。言葉を身体の動きに、身体の動きを言葉に置き換えてみると、そこには他者との解釈のズレやおもしろさが見えてきます。また、本ワークショップでは、独自に開発したソフトウェアを活用し、参加者の動きを分析。「言葉と身体」をめぐるあらゆる関係性を俯瞰する視点と、「身体と言葉」を再定義・再確認する視点をもたらします。「身体と言葉」に着目し、数多くの作品を生み出して来た山下残と、YCAMが、共同で開発したオリジナルのワークショップです。

※動きやすい服装でご参加ください。

#### 申込受付期間：

11月14日(月) - 2012年1月8日(日) 必着

#### 申込方法：

郵便、FAX、e-mailにて、下記項目をご記入の上、お申し込みください。

1. 名前(ふりがな) 2. 性別 3. 生年月日(保険適用のため)
4. 郵便番号/住所 5. 電話番号、FAX番号等連絡先
6. ワorkshop参加の動機

#### 応募先/お問い合わせ：

山口情報芸術センター ワorkshop「コトバ身体」係  
〒753-0075 山口市中園町7-7  
TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216  
e-mail: workshop11@ycam.jp

※応募者多数の場合は抽選となります。抽選結果は1月中旬頃、電話、FAX、e-mailにてお知らせいたします。

### 開催概要

山口情報芸術センター [YCAM] : パフォーマンス公演

#### 山下残「庭みたいなもの」

振付/演出：山下残 舞台美術：カミイケタクヤ

2012年1月28日(土) 19:00 開演

29日(日) 14:00 開演(各回30分前開場)

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

※上演予定約80分

#### 終演後イベント

28日(土) ポストトーク 出演：山下残 ※ほかゲストあり

29日(日) アフターアワーカフェ 出演：山下残、出演者ほか

※終演後のイベントには、公演チケット、半券をお持ちの方はどなたでもご入場いただけます。(入場無料)

振付/演出：山下残

出演：黒田政秀、小坂浩之(KDC)、酒井和哉、末森英実子(おかつば企画)、立蔵葉子(青年団)、富松悠、増田美佳

舞台美術：カミイケタクヤ

システムデザイン：演哲史(YCAM InterLab)

宣伝美術：千原航

主催：公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

支援：平成23年度優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業

助成：地域の芸術環境づくり助成事業、公益財団法人セゾン文化財団

共同開発：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]、

AI・HALL (伊丹市立演劇ホール)、STスポット

### チケット情報

チケット発売：2011年11月12日(土)

料金：[全席自由]

前売 一般2,500円/any 会員・特別割引2,000円/25歳以下1,800円

当日 3,000円 ※当日は各種割引対象外

電話/窓口：

山口市文化振興財団チケットインフォメーション(YCAM内)

083-920-6111 (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

インターネット：

<http://www.ycfcp.or.jp/> (24時間受付 ※要事前登録)

セブコード：013-874

■特別割引：シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。

■未就学児入場不可

■託児サービス

対象：0才(6ヶ月)以上

託児時間：開演の30分前から終演30分後まで

料金：お子様1人につき500円、2人目以降は1人につき300円

申込方法：公演は1月21日(土)、ワークショップは1月14日(土)までに、左記チケットインフォメーションまでお申し込みください。

■車椅子席・補聴システム：事前にお問い合わせください。